



スヌーピーは女性の味方!?

山崎 恵司

もう半年も前のことになるが、昨年末の12月26日～1月3日、米国西海岸に旅行した。気楽な一人旅だったので、WSFの事務局へも足を運んでみたのである。

WSFは、読者ならご存知のようにWSF Japanのいわば“本家”。現在の会長は東京オリンピックの女子水泳、400m個人メドレーで金メダルを取ったドナ・デ・パロナである。事務局はサンフランシスコにあり、中心から車で20分ほど北西へ走ったところ。閑静なアパート街の中にあり、何十万もの会員を擁する団体の事務局とは思えない地味な建物だった。

ドアを開けると、ジョイスさんという女性が笑顔で迎え入れてくれて、WSFについて詳しく説明してくれた。こぢんまりとしたオフィスだが、コンピューターの端末機と資料を手早く閲覧できるように工夫されたファイルケースが印象的だった。帰り際、WSFの出版物を持ちきれないほどいただいたのだが、どれもこれもスヌーピーの絵が入っている。尋ねてみるとWSFの副会長がチャールズ・シュルツ（PEANUTSの作者）であった。男性でしかもスポーツとはまったくジャンルを異にする人が役員に入っているのが興味深く感じられた。そもそも私が女性スポーツに興味を持ったのは米国のキング夫人の動きだった。彼女の活動を知ったとき、「日本人の女性もしっかりしないと…」と痛感した。

それ以来、WSFはもちろんのこと女性のスポーツ意識についても興味を持ち、今回の渡米では、ぜひと

もWSFを訪ねてみようと思ったわけである。また、同じサンフランシスコに近い所にあるWPGT（ウイメンズ・プロゴルフ・ツアー）の事務局にも足を延ばしてみた。

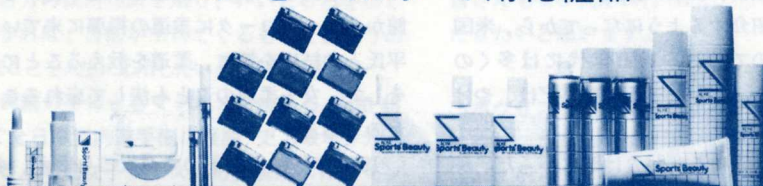
このWPGTについて聞いたことがあるという人がいたら、その方はたいへんなゴルフ通といえるだろう。WPGTは有名なLPGA（レディス・プロゴルフ・アソシエーション）とは全く別の団体であるが、いうなればLPGAの二軍のようなものと考えていいだろう。LPGAを目指す若い選手がこのツアーで生活費を稼ぎながら腕を磨いている。日本の日蔭温子や森口祐子らもWPGTでプレーした後、LPGAのツアーライセンスを取っている。

事務局を訪れた日は、ちょうどクリスマス休暇でスタッフは少なかったが、みな1月のシーズン開幕に備え、書類の山の中で精力的に働いていた。もちろんスタッフは全員女性、日本では考えられない光景である。

今回の渡米で感じたことは、企業や社会的に影響力のある人たちの女性スポーツに対する理解が、日本とは比べものにならないということである。2つの団体もスポンサーを何社も擱んでいるし、シュルツ氏のような人の協力を得ていることも強味といえるだろう。やまざきけいじ 1955年7月16日生まれ。大阪府出身。関西学院中学・高等部時代はバスケットボール部。大学では社会学を専攻、ヨット部に所属。現在は共同通信福岡支社運動部記者。WSF Japan 会員。

日焼けを防ぐ! お化粧くずれに強い!

コーセーのスポーツ用化粧品



コーセー スポーツビューティ シリーズ 新1品 全13品 600円～1800円

Sports Beauty
動くほど美しく。スポーツビューティ

コーセー化粧品